

釧路湿原自然再生協議会
第33回 再生普及小委員会
議事要旨

日時：令和元年6月25日（火）14:00～15:30

場所：釧路地方合同庁舎7階 第5会議室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) 第3期再生普及行動計画の評価及び第4期計画（案）の検討について
 - 3) その他
3. 閉会

事務局

挨拶

（資料確認）

委員長

資料に基づき報告願う。

【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づき内容説明。

（資料1 再生普及行動計画オフィス取組みについて）

（資料1-1 「ワンダグリンド・プロジェクト2019」応募状況）

（資料1-2 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会について）

実施予定行事について、各小委員会事務局主催団体より内容を紹介いただく。

委員

湿原再生小委員会の幌呂地区見学会は7月25日に実施する。幌呂地区再生事業地地盤切り下げ箇所でのヨシの移植等を行うことにより湿原再生を体験していただく。

事務局

環境省では8月25日に達古武湖においてヒシ刈りのイベントを予定している。

委員

旧川復元小委員会では、茅沼において旧川復元を行った効果を体験していただく。

日程は7月～9月、旧川復元や釧路川の紹介を職員が行う。

委員

雷別地区自然再生事業地ではボランティア「雷別ドングリ倶楽部」との協働を含め年3回の活動を行っている。森林再生の取組みとして、広葉樹の植樹とツリーシェルターの被覆を予定している。

事務局

環境省の取組みとして、9月14日に「自然再生を考える調査体験2019」を予定している。また、来年2月には「自然再生を考える調査体験2020」を予定している。

委員

水循環小委員会での取組みは現在内容を精査中である。10月以降に、昨年まで湿原再生を行った幌呂の付近で、湿原に流入する湧水の状況を見学し、久著呂川からの土砂流入と物質循環について現地で説明したい。

事務局

地域づくり小委員会の今年度活動内容については現在検討中である。また、土砂流入小委員会の久著呂川での自然再生見学ツアーは8月27日に予定されている。

再生普及に関わる取組みは、主に環境省が開催するフィールドワークショップのほか、学校対応等を進めている。学校の希望にもよるが、要望があった際には自然再生事業地の活用も検討したい。

委員長

質問、感想はあるか。意見をいただきたい。

委員

これまでの参加団体や取組み数が右肩上がりです。素晴らしい。非常にご苦労されていると思うが順調に進んでおり、皆さん頑張っておられると思う。

委員

学校教育ワーキンググループの教職員を対象にした事業について詳しく教えてほしい。

委員長

学校支援活動は基本的に2つある。生徒への学習の支援喚起等、もう一つは先生への支援である。

委員

補足する。教員研修は10年来、教育研究センターと共催で行っている。

教員研修においては、学校での取組みとはすぐに繋がらない事もあるが、その後に関わりを持たせた学校もある。先生へは生徒に研修での体験を話してもらっただけでも良いと伝えている。

教育委員会、参加された先生からは、ある程度の評価をいただいている。

委員長

一生懸命活動してきた先生が転勤になると活動が無くなる傾向がある。転勤先で頑張って活動してもらえると良い。

委員

非常に多様に活動されており嬉しくまた驚いた。現在、博物館・動物園と関わった活動というのはあるのか。

事務局

博物館ではワンダグリンド・プロジェクトの一環として釧路湿原の魅力、湿原再生についての情報発信をしている。また、動物園と博物館学芸員には、それぞれの専門家という立場から活動に助言いただいている。

委員長

ワンダグリンド・プロジェクト2018活動報告に主な活動の紹介がある。図書館のように文化的に関わりのあるものもある。現在は少しずつ職種を広げているところだと理解いただきたい。

委員

動物園では湿原におけるタンチョウの傷病鳥の保全保護、普及啓発などがある。

委員長

動物園と再生普及小委員会との活動を繋げる可能性はあるか。

委員

動物園の園内には北海道ゾーンがある。一部には湿原の中を歩くような木道があるが現在は環境が大きく変化し、殆どトンボは見られずカエルの池になってしまった。

釧路湿原やワンダグリンドと絡めては行っていないが、意識としてはあるのではないか。私はボランティアの立場でできる事があればやっていきたい。

委員長

繋がりが無いわけではないか。

委員

無いわけではない。湿原の生物の構成要素であるタンチョウ、シマフクロウ、オオワシなどの様々な保全に関わっていただいている。展示は普及啓発の一環としても役立っている。

委員長

協力し合いながら協働する可能性はある。今後の課題である。

委員

ワンダグリンド・プロジェクトの活動は、継続的で幅も広がりとても素晴らしい。

質問がある。オフィスの取組みとこの小委員会の取組みの関係性はどのように理解すれば良いのか。行動計画オフィスはどの程度の人数で運営しているのか。

また、他地域での再生の取組みと普及啓発の観点から、協力や情報共有をし合うような取組みがあれば教えてほしい。

事務局

再生普及小委員会の具体的な実施内容は行動計画に定めている通りであり、後ほど説明する。実施運営のために再生普及行動計画オフィスを設置している。小委員会の取組みは、ほぼオフィスの取組みと認識いただいて良い。

委員長

何人程度で運営しているのか。

事務局

実際の担当者は2名～3名である。環境省、環境省以外の事務局、その他の協力者と学校の対応や様々な普及啓発事業を取組んでいる。

委員長

議事1はここまでとする。

議事2に移る。第3期釧路湿原自然再生普及行動計画に沿った活動のまとめ、反省点、改善点等を考えるための報告である。

【議事2. 第3期再生普及行動計画の評価及び第4期計画（案）の検討について】

事務局

資料に基づき内容説明。

（資料2 第3期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価および第4期計画（案）の検討について）

委員長

新たに作成する第4期行動計画は、来年2月～3月に開催される釧路湿原自然再生協議会で承認いただく。この機会に様々な評価、要望、進めるべき点等を話していただきたい。

日本の他地域の自然再生の動きと釧路湿原を比較して感想はどうか。

委員

第3期行動計画の評価は第4期に反映しなければいけない。

40数ヶ所の再生協議会が集う全国再生協議会情報連絡会議は、年1回2日間開催され、各再生協議会の取組みが紹介される。報告会、懇談会で情報交換等をしている。その会議の開催地は全国を転々とするため他地域のフィールドを見る事ができ、参加者が参考にする。

先の疑問に答える。再生普及小委員会での取組みであるワーキンググループ、ワンダグリンド、教育支援、情報発信をオフィスが取りまとめているが、資料タイトルは「資料1 再生普及小委員会の主な活動報告」とするべき。

委員

理解した。

委員長

全国の湿原の自然再生に関して釧路は先頭を切った活動だったと思う。現在もそのよ

うに理解して宜しいか。

委員

そのとおりである。自然再生協議会と市民との連携を、毎年多様に展開するような取り組みを行っているのはここだけであり自慢である。発表する度に、提携している仕組み、繋がり、知恵、エネルギーの源などについてよく質問されている。

釧路湿原自然再生協議会の報告書は他再生事業において大いに参考になっている。私たち、皆さんも大いに自信を持ち、全国の先頭に立っているという自負を持っていただいで良い。

委員長

この10数年の活動で徐々にそのような形が作られてきた。

委員

学校の参加はここ2年、3年で凄く増えたと感じる。

釧路湿原国立公園ボランティア・レンジャーの会の活動へは昨年より数社の会社の参加もある。新規会員は2年前に十数名、今年は17名程度が加入した。湿原や環境に興味を持ち加入する方が増えている。Uターンや夏期の長期滞在者からの参加もあり、少しずつ浸透していると感じる。

当会は年間150回程度の活動を行っている。月1回の温根内ビジターセンター等の清掃、オオハンゴンソウ・ウチダザリガニの防除、温根内の木道定点での湿原解説、エゾシカ数のカウント等を行っている。毎年7月末に一般市民の親子を募集し、ウチダザリガニ捕獲と試食をするイベントを開催している。

委員長

長い市民活動の経験から現在の再生普及小委員会の活動に関してご意見を伺いたい。

委員

ある高等学校では修学旅行に行った際に、京都駅で釧路湿原の説明をする計画を立てており私共がお手伝いをしている。しかし、この資料には記載されていない。そういうことをどのようにまとめていけば良いか分からない。

私共釧路専門学校の観察会は43回を迎えるがほとんどは、一般市民からの寄付である。

委員

こどもエコクラブでの活動は今年で23年目になり、今年は文部科学大臣賞をいただ

いた。こどもエコクラブの参加者は今年6名であり、今の子どもたちは少し忙し過ぎると感じる。

先日、ウチダザリガニ調査に初参加の親子連れ2組は、次回も参加したいと言っていた。このようなことは良くある。

温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンターへ直接支援のお願いをする学校は、昨年度何校程度、何名程度の受け入れをしたのか把握しているか。

事務局

温根内ビジターセンター、塘路湖エコミュージアムセンターで各十数件ずつ学校対応を行っている。

委員

学校対応が広がってきていると言うが、もう少し参加があっても良い。先日、ある学校の校長先生が行きたい場所への交通手段、交通費の問題があると聞いた。学校支援に対する考え方を変えなくてはいけない。

委員

件数に対する動員数も考える必要がある。

交通機関の利用方法が分からない人を助ける方法が無いものか。

委員長

この問題は数年前から繰り返し議論されている。突破口が開けないでいるが考えてみたい。

委員

全国会議でのある団体から良いアイデアをいただいたため紹介する。必ずしも釧路湿原の中に連れて行くのではなく、身近なところに湿原の仕組みが判るものを発見するというアプローチを行ってはどうか。

委員長

様々な工夫や方法があるかもしれないということ。

委員

私たちも春採湖畔や運動公園などで様々なそういう場所を探し、春採湖畔では博物館の学芸員さんなど様々な方に教えてもらうということも行っている。地元の学校の先生に、こちらからもっと働きかける必要もあるのではないか。

委員長

関心を持つ地域内外、子どもを増やす方法がないか等、問題は山積みである。様々な努力をしてきたが更に何か新しい事ができないか考えたい。

委員

先の報告にあった全国大会について、ワンダグリンダ・協議会の印刷物として報告いただきたい。

行政関係の方以外の委員の若返りと後継者育成が必要である。

活動への町ごとの参加者の内訳が知りたい。

普及小委員会だけではなく、釧路湿原の観光、インバウンド対応を含めて全体的に外への発信について考える必要がある。釧路湿原でカヌーに乗る体験をした方は皆さん良い体験ができたと言う。札幌、道庁での無料展示コーナーを開催等、情報を入手して発信する必要がある。我々のような組織がやるべきだと感じた。

人を案内する際に使える釧路湿原のパンフレットが欲しい。釧路の歴史、土地利用の変遷が含まれたもの。ホームページよりダウンロードできるようなもの。

委員

釧路湿原のパンフレットはある。

委員長

分かりやすい場所に置いてはどうか。

委員

後継者が必要である。北海道庁はアウトドア資格制度を条例で設けており、資格を取ろうとしている一生懸命な若者もいる。若い人にバトンタッチしたい。

委員長

若い人を育成し、後継者への呼びかけを意識的、意欲的に行う必要があると思う。

資料2に基づいて進めて良いか。

(委員：反対なし)

議事2は以上になる。議事3に関して事務局から説明をお願いする。

事務局

本日、昨年度末に作成した釧路湿原自然再生事業を紹介した英語版パンフレットを配布した。日本語版と合わせて残部がある。行事等で活用いただきたい。

また、夏のフィールドワークショップは8月23日実施で調整している。詳細が決まりしだい別途案内する。参加を検討いただきたい。

委員長

本日予定されていた議事は以上になる。

事務局

次回の再生普及小委員会は12月頃を予定している。

以上をもって第33回再生普及小委員会を閉会する。

(終了)